

広報

うわじまちくしょうぼう

第80号

宇和島地区消防本部
宇和島地区防火協会
<http://www.119.uwajima.nanpu.or.jp/>

春の火災予防運動

3月1日(水)～3月7日(火)

「消しましょう その火その時 その場所で」

【住宅防火いのちを守る7つのポイント】

3つの習慣

- 1 寝たばこは、絶対やめる。
- 2 ストープは、燃えやすいものから離れた位置で使用する。
- 3 ガスこんろなどのそばを離れるときは、必ず火を消す。

4つの対策

- 1 逃げ遅れを防ぐために、**住宅用火災警報器**を設置する。
- 2 寝具、衣類及びカーテンからの火災を防ぐために、**防災品**を使用する。
- 3 火災を小さいうちに消すために、**住宅用消火器等**を設置する。
- 4 お年寄りや身体の不自由な人を守るために、**隣近所の協力体制**をつくる。

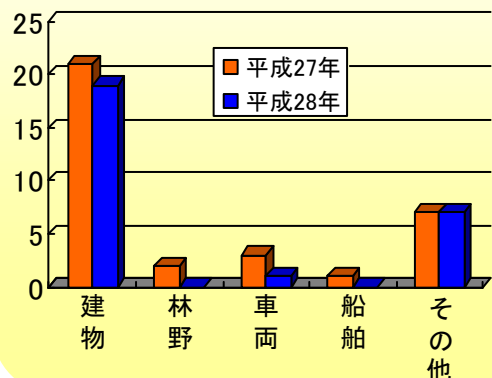


平成28年中の火災・救急速報



火災概況 → ※火災件数過去最少27件

平成28年中に宇和島地区管内で発生した火災は27件で、前年の34件に比べ7件の減少となっており、広域消防発足(昭和54年)以降最少の火災件数となっています。また、月平均出火件数としては2.25件となり、およそ13日に1件の割合で火災が発生したことになります。火災種別では、建物火災19件、林野火災0件、車両火災1件、船舶火災0件、その他火災7件となっています。出火原因では、放火(疑い)6件、たばこ6件、たき火3件、かまど2件、ガス切断機2件、電気関係2件などとなっています。



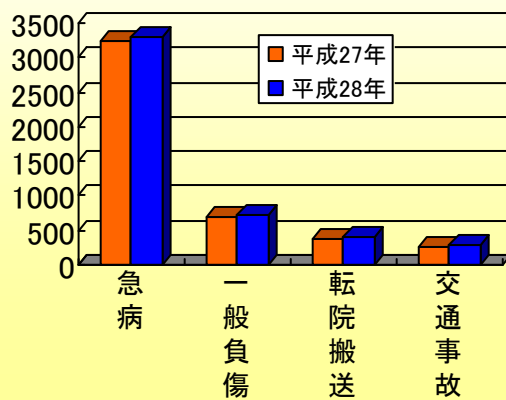
【出火原因】

- ① 放火・疑い 6件
- ② たばこ 6件
- ③ たき火 3件
- ④ かまど 2件
- ⑤ ガス切断機 2件
- ⑥ 電気関係 2件



救急概況 → ※出動件数4,802件 21人に1人が救急車利用

平成28年中の救急出場件数は4,802件で、前年に比べ105件増加し、搬送人員は4,500人で89人増加しています。事故種別では、最も多いのが急病で3,294件、次いで一般負傷712件、転院搬送407件、交通事故286件などとなっています。出場件数及び搬送人員の増加した要因として、転院搬送業務への救急車利用の増加と、高齢化の進行と共に65歳以上の交通事故件数が増加したことなどが考えられます。



文化財防火デー：宇和島城防火訓練

1月26日は、法隆寺金堂壁画が焼損した日にあたり、文化庁では毎年この日を「文化財防火デー」と定めています。

宇和島市では、この日にあわせ、宇和島市・宇和島市教育委員会主催により、防災機関、民間協力団体における防災体制の連携強化と応急対策等の向上及び市民への防災意識の普及と高揚を図るため、「宇和島城防火訓練」を実施しました。

【参加機関】

- ・宇和島地区消防本部
- ・城山を守る会
- ・宇和島市シルバー人材センター
- ・宇和島市文化財保護審議会委員
- ・宇和島市
- ・宇和島市教育委員会



《紺綬褒章》佐々木ヒサ子氏

市内丸之内在住の佐々木ヒサ子様が、当消防本部に「高規格救急自動車・高度救命処置用資機材」を寄贈(平成27年)された功績が認められ、「紺綬褒章」を受章されました。

これまでに県下消防本部で救急車等の高額物品(2千900万円)を個人資産により寄贈されたケースはなく、全国的にも珍しい社会貢献活動といえます。

佐々木様は西宇和郡瀬戸町(現伊方町)のご出身で、丸之内商事(株)監査役を歴任され、現在は代表取締役会長に就任されております。



各種訓練を実施しています。



山岳救助訓練

11月7日(月)に宇和島市川内の薬師谷溪谷で、山岳地での事故を想定した山岳救助訓練を実施しました。

訓練は、登山客が誤って斜面から転落して動くことができなくなったという想定で実施し「引揚げ救助法」「張り込み救助法」の2種類の救出方法の確認を行いました。

参加隊員たちは訓練施設とは違う実戦さながらの状況下で訓練を行い、様々な課題を洗い出すことができ、今後に繋がる実りある訓練となりました。



交通救助訓練

11月29日(火)、12月26日(月)の両日、宇和島消防署津島分署が交通救助訓練を実施しました。今回の訓練は、実際の車両を破壊する実戦的なもので、津島町下畑地の有MROさんのご厚意により、廃車及び訓練場所の提供を受けて実施することができました。

当消防本部管内における救助出動件数は年間40件前後で、このうち交通事故によるものがおよそ半数を占め、例年種別件数ではトップとなっています。

今回のような訓練の機会はそう多くないため、特に活動経験の少ない若手隊員にとっては貴重な機会となりました。参加した若手隊員は、ドアの開放や窓ガラスの破壊要領について先輩隊員の指導を受けながら、ひとつでも多くの技術を吸収しようと真剣な眼差しで訓練に臨んでいました。このほか、事故車両から傷病者を車外へ救出する訓練も実施されました。



合同水難救助訓練

12月9日(金)に宇和島市大浦岸壁において、八幡浜地区施設事務組合消防本部、宇和島海上保安部及び徳山海上保安部と合同で水難救助訓練を実施しました。

南予地区において潜水部隊を有する消防機関は八幡浜・宇和島の二本部で、八幡浜消防本部は水難救助車両等を保有しています。また、大ヒット映画「海猿」にも登場する海上保安部の潜水部隊は、高度な技術を有する海難救助の専門部隊として知られています。このような機関との合同訓練は、当消防本部の水難救助隊員にとっても貴重な技術交流の機会となりました。

訓練は、事前に状況を知らせない「ブラインド型」と呼ばれる手法で行われ、災害現場さながらの緊迫感にあふれたものとなりました。隊員たちは、互いの救助技術に大いに刺激を受け、自らの技術をさらに高めるべく決意を新たにしました。当消防本部では、これからも救助技術の向上を図るとともに、水難事故0を目指して事故防止の啓発活動にも努めてまいります。



集団救急訓練

1月19日(木)宇和島市大浦の埋立地にて、集団救急救護訓練を実施しました。この訓練は、災害により多数の傷病者が発生した際の対応を確認するための訓練で、当消防本部の他にも、警察、医療(DMAT)、愛媛県消防防災航空隊等の関係機関から約60名が参加して行なわれました。

訓練はマイクロバスが単独事故を起こし、多数の傷病者がいるという想定で実施し、活動全体の流れを区切りながら、その都度活動要領の確認・検討をしていくという手法で行ないました。参加者全員で活動の手順を確認しながら訓練を進めていくことで、各機関がどのように活動しているのかを相互に理解することができました。

訓練終了後には検討会が実施され、新たな課題も浮き彫りとなりました。今後は課題の検証を行ない、有事の際にはしっかりと対応できるよう、さらなる活動能力の向上を目指し精進してまいります。



『幼児防火教室』

宇和島方面隊女性消防団員は、幼児期の防災教育の重要性を認識し、平成25年度から「幼児防災教育」の一環として、子どもたちに災害についての正しい知識と的確な判断力を身につけてもらい、状況に応じて適切に行動できるよう、保育園等を巡回指導しています。今回は岩松幼稚園で、第3回目となる活動を行いました。

【内容】

- ① 衣服に火がついたときの対応 『Stop Drop and Roll』
- ② 防災紙芝居 『こんなときキミならどうする?』
- ③ 火災発生時の避難方法 『姿勢を低く!』



「岩松幼稚園」での様子 H28.12.16



Stop Drop and Roll

※開催を希望される団体は、消防本部総務課(22-7539)までご連絡ください。



ピーピーピー 火事です。

10年たったら、とりかえろ。

お宅の住宅用火災警報器、そろそろ交換時期ではありませんか?



住宅用火災警報器は、古くなると電子部品の寿命や電池切れなどで火災を感知しなくなることがあるためとても危険です。10年を目安に交換しましょう。